

マレーシア家具産業世界へ拡大

MIFF・アセアンのハブフェアに

18年新会場のMITEC10万²mで開催

ゴムの木不足で外材も1部導入

デザイン・技術革新など促進

第23回マレーシア国際家具展(MIFF)が3月8日から11日、クアラ Lumpurのプトラ・ワールド・トレード・センター(PWTC)をメイン会場に、マトラド・エキジション&コンベンションセンター(MECC)を第2会場に開催された。総会場面積8万²mに543社が出展、多くはマレーシアの企業で占めた。パピオンとして中国、台湾が第1会場に出展、初日中国パピオンで開場式がおこなわれた。

また、第2会場のMECCは第1会場から約15分のシャトルバスで繋ぎ、マレーシアの家具生産地・ジョホール州モア市の柔佛家具工業&輸出協会、麻坡家具協会会長・梁志傑(SWS社長)が地元モアの企業でパピオンを形成、約100社が会場構成をした。

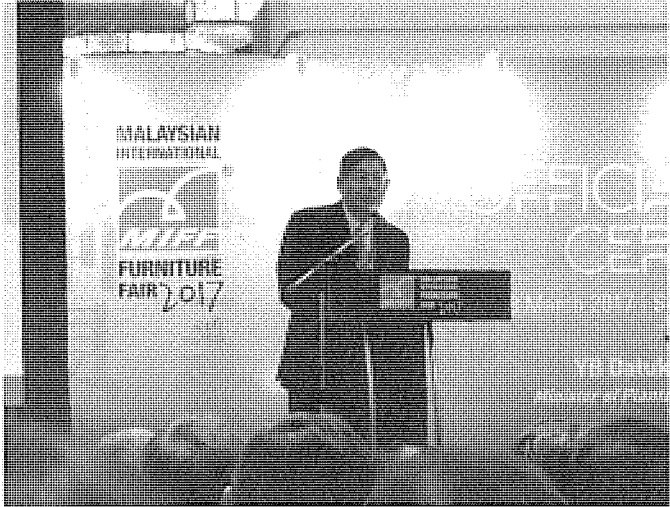
注目の日本からはフランスベッドが単独で第1会場ホール4に出展、マットレスの上に敷くクォールパットや快眠枕、涼感機能を持つ縫いぐるみなど持ち帰り機能製品を主に即売した。本格ベッド、リクライニングベッ

ド、マッサシーチェアナ・テンバー協会のダット・アドゥ・ラヒム会長はインタビューで素材動向を次のように語った。

マレーシアといえはラバーウッドだが、依然として主材の位置は占めながらも、ゴム材材の需要増による樹液採集で樹木の伐採が4、5年延期傾向にあるため原材料が不足、外材への依存傾向が表面化してきた。ニュージランドを始め数カ国から代替材を輸入、つれて製品もマレーシア・オーク材(ラバー)から多様なスタイルへと拡大傾向を見せた。

素材面ではマレーシア・アメリカ、インドの経済が強くなり、マレーシアはこの2年間、家具産業にとってはいい方向に向かっている。2016年には前年比で木製家具は3・8%、家具全体では4・2%アップした。マレーシアは世界でも家具の生産国と言われているが、世界的には8位にランクされてきた。これを2020年には5位になることを目指している。

②木材関係の輸出先はアメリカが1位で、日本が2位だ。製品は80%が木製家具で占める。その製品素材は70%から80%がラバーウッドだ。ゴムの木は20年から25年で伐採、植林を繰り返す。しかし、現状はゴムの家具需要対応は不足気味



オープニングセレモニー タト・タン・チンホァ氏



モアの協会ブース



会場内出展社



会場内出展社



IAFP 総会

アンのほか多かったのがインドやイスラム圏への輸出製品で、シックで仕向け先の生活習慣をにじませた素材かつ伝統的な雰囲気のリビングルーム、リビングルームなどを多く出展していた。

国際家具出版連盟(IAFP)20周年記念総会

議長国ロシア、副議長シンガポール就任

MIFFのオープンに先駆けて7日、PWTCのコンベンションルーム

仕向け先は国内、アセ

にもあるが利用は少ない。(以下・ラヒム会長のインタビューは次号へ)

世界中でマレーシアのゴムの手袋への需要が増えている。病院などのニーズが強い。トップメーカーのマレーシア企業は国内や中国に工場があるが受注に追われている。そのため家具材にゴムの以外の利用を進めているが、これもアカシア材、ニアトウ材などが主で他

出展内容はダイニングテーブル、イス、ソファ、ベッド、木製イス、リビングボード、リビングセットなど多様。オフィスや施設家具のコントラクト製品、事務用デスクなど従来製品も第1会場の1階に多く出展した。

MIFFのオープンに先駆けて7日、PWTCのコンベンションルーム

で、IAFPが総会を行った。今総会はトルコのゼキ氏が退職して会員資格を失ったための後任人事と、ルーマニアのイムル氏が会員のモヒリィ(マガジン)を退職して新媒体を発行、引き続いての会員資格要件に対して、その是非を問う異例の総会となった。

事業としては①従来の情報共有と会員間の事業コラボなどを重視し、連盟としての事業とくに会員の事業との競合は行わない。②グローバルなネットやウェブ事業の立ち上げを図るなどの意見が出され、さらに次回ミーティングや総会で調整することとした。

MIFFのバイヤーズナイトや関連行事でメンバーは20周年を迎えた事が報告され、主催のダト・タン・チンホァMIFF会長へ連盟総会のサポートに感謝して、盾が贈呈された。

なお、公式のオープニングセレモニーで、タン氏から2018年のMIFFはMECCに隣接する場所に新設施設MITECを竣工、面積10万²mの規模でさらに海外からの出展増を図って開催する計画が発表された。ここを85%使用し、他に従来のPWTCで15%の展示面積を持つという。先に挙げたマレーシアの家具生産集積地モアは新会場への出展になる。今年のMIFFは主催者の見込みでアメリカ、カナダを始め140カ国から2万7000人の入場者(バイヤー6000人)を見込み初日、2日目の出足は前年比2倍となった。課題の無い家具フェアは無いが、MIFFがアセアンのハブの座を確立したとみていい。(次号へ続く・長島)